読書百遍

令和５年度 朝礼（10/30）　校長の話

おはようございます。

今日はスライドを見てもらいながらお話したいと思います。

さて、１０月２７日から１１月９日まで「読書週間」ということで、全国でさまざま取組を行っています。ところで、皆さんは読書が好きでしょうか。実は、全国学力調査を見ると、次のような結果となりました。

ちょっと分かりにくいグラフですが、下に３本並んでいるグラフのうち、一番上が八中の結果です。「読書が好きですか」という質問に「好きだ」と答えたのは２３．６％。東京都や全国の平均がだいたい３５％ですから、１０％以上も低い結果になっています。

また、次のグラフは「学校の図書室や地域の図書館に、どれ位行きますか」という質問ですが、「まったく行かない」と答えた八中生は７０％以上もいます。東京都や全国の平均がだいたい６０％位なので、やはり１０％以上、低い結果となってしまいました。

では、そもそも読書がきらいなのはなぜでしょうか。読書がきらい、ということは読書なんてつまらないと思っていることでしょう。そして、つまらない原因は何かと言えば、読んでもわからないということがあるのかもしれません。そうであるなら、わかるまで繰り返し読むことが大事です。

同じ本を何度も読むとわかるようになります。すると、本がおもしろいと思うようになり、読書が好きと言えるようになるでしょう。

そこで今日の四字熟語は「読書百遍」です。今日はこの言葉を皆さんに送ります。

「読書百遍」とは、もともと「読書百篇　意　自ずから通ず」という中国の古い言葉からきています。意味は「何度も読めば自然と分かる」というものです。一度読んで難しいとあきらめてしまえば、それ以上の成長はありません。何度も読んでいると、自然と分かるときがくる。そのときこそ、おもしろいと思えるし、また自分の成長があるのです。難しいなと思ったら、何度も読み返してみてください。それがわかったとき、目の前の霧がはれて世界が広がります。

とは言っても、あまり読書しないという人には、「まず、読んでみたいと思う気持ちが大事」だと言いたいと思います。

読みたい本を手に、パラパラとめくるのも立派な読書です。

好きな本を何度も繰り返し読むのも「読書好き」と言っていいでしょう。私の知っている人で「ハリーポッター」を、もう５０回以上読んでいるという人もいます。

読書というと堅苦しいですが、もっと気軽に楽しんでいいのです。そこで、皆さんには本に興味をもってもらうために、いくつか本の紹介したいと思います。

ブックトークといって、あるテーマにそって何冊か本を紹介する方法がありますが、これからそれをしてみましょう。さて、どんなテーマがいいかと悩んだのですが、だれもが興味あるであろう話題、「顔」をテーマに、本を紹介します。

だれでも毎日、だれかの顔を見ていますよね。イケメンとか美人とか、顔については多くの人が関心をもっています。そこで、学校の図書室で「顔」に関係する本を集めてみました。

まずは、その名もずばり『顔の大研究』です。

これは目次ですが、顔に関するいろいろな話題が一冊につまっているのがわかります。

たとえばこのページは、時代によって日本人の顔の好みが変わっていくということを解説しています。

次のこのページは、身の回りの生活品に「顔」と認識できる形がいっぱいあると例を挙げています。。スイカの切り口やドアノブなど、顔に見えますよね。こんな面白いことが写真入りで解説してあるので、興味ある人がどうぞ読んでみてください。

次に紹介するのは『自分の顔が好きですか？』という本。顔に関する心理学の本です。

この本ではこんな面白い実験を紹介しています。画面をみてください。左の人と右の人、どっちが「女性らしい」と感じますか。「左の人」か「右の人」か？　この実験をすると、「右の人」の方を女性らしいと感じる人が多い結果となります。タネを明かすと、この写真は二人の人物を合成したものです。顔の半分を男性の顔写真、片方を女性の顔写真にして合わせたものです。さらに、左の写真を反転させたのが右の写真です。つまり、もともと２枚は同じ写真です。それなのに、右のほうが女性らしいと皆さんは感じました。これはどうしてかと言うと、私たちの脳は顔の、向かって左側のほうを印象強く感じるようにできているからです。右の写真は、向かって左側が女性の顔になっている写真なので、女性らしいと感じたわけです。おもしろい脳の仕組みですね。

ところで、皆さんは自分の顔を見るとき鏡を使いますが、鏡は、実物の反対を映しているのはご存じですね。鏡に映っている顔は、他の人が見ている顔とは反対のものです。人間の顔は完全な左右対称ではないので、鏡で見ている自分の顔と、他の人が見ている自分の本当の顔は、この実験のように、印象が違います。このように、この本には顔に関するおもしろい心理学がたくさんあります。「赤ちゃんはどうやって顔を覚えるか」「美しい顔に基準はあるか」など、目次を見ているだけでも面白そうですね。興味のある人はぜひお読みください。

さて、最後に小説を紹介しましょう。『ワンダー』というアメリカの小説です。

これはベストセラーになり、映画にもなりました。

映画のシーンを使ってあらすじを紹介します。

主人公は、オーガストという 10 歳の少年。彼は生まれつき顔に障害があり、27 回も手術をしてきました。そのため、学校に行かず、お母さんに勉強を教えてもらってきたのですが、ついに初めて学校へ通うことを決意しました。

ところが、オーガストの顔を見るなり、皆がよそよそしい態度になります。予想していたとはいえ、彼にとっては落ち込むような出来事でした。

彼は自分のことを、ごく普通の男の子だと思っています。家族の愛情のおかげで、落ち込むことはあってもすぐに元気を取り戻し、がんばって学校生活を続けます。

学校では気取り屋のジュリアンという少年を始め、彼をいじめるグループもいます。

しかし、ジャック・ウィルという友達がいて、いっしょに冗談をいいながら、仲良く遊んでいました。

ところが、です。ハロウィーンの日、子どもたちは仮装をして登校するのですが、仮装している彼が近くにいるのも知らず、ジュリアンたちがこそこそ話をしているところに偶然通りかかります。

オーガストの悪口を言い合っているのでした。ジュリアンは笑いながら言います。「おれがあんな顔をしてたら、きっとなにがあっても、いつも覆面してるよ。」すると、ミイラの仮面をつけた男の子が言いました。「ぼくも何度もそう思ったよ。マジ、ぼくがあんな顔だったら自殺しちゃうよ。」そう言った子は、なんと仲良しのジャック・ウィルでした。

オーガストはショックで、もう学校へ行きたくないと思います。なんでジャックはそんなことを言ったのか、これからオーガストはどうなっていくのか。ぜひ読んでみてください。この物語は、いろいろな登場人物が次々と語り手となって、オーガストをめぐる思いを語っていきます。読み終わった後、さわやかな感動が訪れる本です。

さあ、どうでしょう。いくつか紹介しましたが、興味ある本はありましたか？「読みたい」と思えたらもうあなたは読書好きです。

実は、紹介した本は全部、図書室の司書さんである大江先生に教えてもらったものです。こんな本が読みたいと言えば、司書さんは皆さんにもいろんな本を紹介してくれますので、気軽に相談してみてください。

また、調布市内の司書さんが総出で、今年の推薦本をまとめてくださいました。「ほんとのであい」という冊子で、たくさんの本が紹介してあります。これを見て「読みたい」という気持ちがわけば、もうあなたは読書好きの第一歩を踏んだようなものです。近いうちにアンケートをとろうと考えていますので、ぜひ見ておいてください。

長かったですが、これで私の話は終わります。